

平成 29 年度

学生生活調査報告書



Shizuoka University of Welfare

静岡福祉大学

目 次

あいさつ	1
序 章 調査の概要	2
第1章 学業	
1-1 大学での勉強の重要性	3
1-2 授業に対する理解	3
1-3 勉強時間	3
1-4 学業についての教員との会話	4
1-5 履修科目の選択方法	4
FD委員会からのコメント	5
第2章 進路・キャリア支援	
2-1 卒業後の進路	6
2-2 取得したい資格	6
2-3 将来設計（進路）への不安	7
2-4 キャリア支援課の活用	7
2-5 キャリア支援課への要望や質問	7
キャリア支援委員会からのコメント	8
第3章 学生生活	
3-1 アルバイトの状況	9
3-2 車の免許	9
3-3 同居家族の有無	10
3-4 学生食堂	10
3-5 通学時間	10
3-6 通学手段	10
3-7 大学でのボランティア活動への参加	11
3-8 学友会主催行事の満足度	11
3-9 行事に対する要望や意見	12
3-10 学友会活動への参加	12
3-11 大学生活の充実度	12
3-12 興味・関心	13
3-13 掲示板の使用	13
3-14 Eメールの利用	14
3-15 学生マナーについて	14
3-16 学内外でのトラブル	14
3-17 学生生活への悩み	15
3-18 退学について	16
3-19 オフィスアワーについて	16
3-20 学生支援総合センターについて	16
学生支援総合センターからのコメント	17
第4章 大学	
4-1 本学の理念（建学の精神）の認知	18
4-2 大学生活の満足度	18
4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見	19
学生厚生委員会からのコメント	20
総務課からのコメント	21

課題を解決するとともに学生の能力を引き出す仕組み作り

静岡福祉大学
学長 太田晴康

平成 29 年度の学生生活調査報告書をお届けします。

この調査は毎年実施され、文字通り本学の学生の生活実態を浮き彫りにするとともに、そこから見えてくる課題を分析し、高等教育機関として解決に向けて活用するための貴重な資料といえます。さらには学生、教職員にとどまらず、第三者である外部の関係者にも公表することによって、開かれた大学を目指したいと考えています。今ほど、教育の可視化、要するに「見える化」が求められている時代はありません。二人に一人が大学に進学する時代だけに、大学には様々な学生が入学します。研究職を目指す学生にとどまりません。むしろ本学においてはごく少数でしょう。そうした事実を重く受けとめ、大学で身につけた専門知識や技術を就職先で発揮する職業人として、地域社会を支える市民として活躍する人材を私たちはこれまでも輩出してきました。

そうした本学の特徴は調査でも明らかです。例えば、大学での勉強の重要性について、重要であると答える学生が多いのは当然としても、「あまり重要ではない」「重要でない」と答えた学生が 36 人います。その学生たちも授業に出席し、学んでいるのです。そうであれば、大学としてそうした学生に何を提供できるのかと熟慮せざるを得ません。さらに言えば、そうした学生の内面に個性と能力を発見し、育む必要もあるでしょう。しばしば言及されるアクティブラーニングの手法も有効でしょうし、何よりも全ての学生の発達を信頼することなく、高等教育は成立しないと、つくづく考えさせられるデータではあります。

上記はほんの一例ですが、全ての大学において「大学改革」という言葉がキーワードになっているだけに、高等教育とはいえ、私たちも従来の伝統的な大学と同じスタンスで事足りるというわけにはいかないと痛感しています。学生生活調査のデータを教育に反映させるだけでなく、教職員の意識改革にもつなげる必要があります。4年間を通じて、一人ひとりの学生が自分に自信を持ち、自分の夢を発見し、その夢に向かって第一歩を踏み出すための力を身につける教育を実践すべきことはいまでもありません。

したがって、学生生活調査は大学の指針ともなる貴重なデータにほかなりません。そこで明らかになった課題に向き合い、そこで浮き彫りになった学生像にふさわしい教育課程と教育方法を具現化していく姿勢は、全ての教職員に課せられている命題でもあります。平成 29 年度の調査が平成 30 年度、平成 31 年度と毎年の調査に活かされていかねば調査の意味はないでしょう。私たち全員の決意として、本調査の結果を重く受けとめ、社会に存在価値を認められる高等教育機関としてこれからも歩み続けたいと考えています。

序章 調査の概要

本調査は平成 29 年 11 月から 12 月に、本学学部に所属する学生を対象に行った。

調査は、1 年次から 3 年次の必修科目である「キャリア支援」を履修する学生、1 年生 169 人、2 年生 190 人、3 年生 168 人と、4 年次で「キャリア支援Ⅳ」、「国家試験対策講座」を受講する学生 76 人の合計 603 人を対象として行った。回答者の所属学科、学年、性別の内訳は、表 1 のとおりである。

在籍に対する回答者の割合は、1 年生が 165 人 (85.1%)、2 年生が 165 人 (88.2%)、3 年生が 147 人 (87.5%)、4 年生が 59 人 (31.4%) で、全体で 537 人 (72.9%) と 1 年生から 3 年生の 8 割以上が回答し、昨年回答率を 16.5% 上回った。

表 1 学生生活調査回答者の内訳

平成 30 年 2 月 1 日現在

学年	学科	女子		男子		性別不明 回答者	合計	
		在籍	回答者	在籍	回答者		在籍	回答者
1	心理	53	43	44	32	0	97	75
	医療	10	10	6	5	0	16	15
	健康	15	14	13	11	1	28	26
	子ども	38	35	15	13	0	53	48
	未記入		1		0	0	0	1
2	心理	51	48	38	32	2	89	82
	医療	22	21	5	3	0	27	24
	健康	13	12	23	17	0	36	29
	子ども	29	27	6	3	0	35	30
3	心理	36	27	30	24	2	66	53
	医療	16	16	11	9	0	27	25
	健康	16	9	29	20	10	45	39
	子ども	19	16	11	10	3	30	29
	未記入		0		1	0	0	1
4	心理	56	22	39	9	1	95	32
	医療	23	4	23	8	2	46	14
	健康	22	5	25	4	4	47	13
未記入			0		0	1	0	1
合計		419	310	318	201	26	737	537

※在籍者数には、休学者を含む

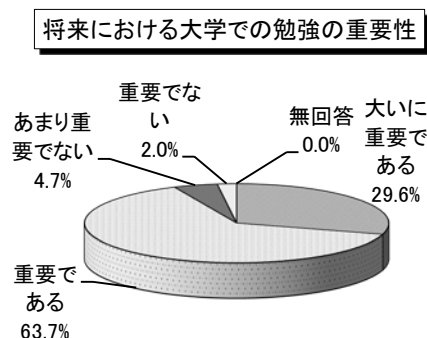
また、本調査は、学業、進路・キャリア支援、学生生活、大学に関する 4 つの領域から構成され、各項目に対して、選択形式または自由記述の形式で回答を得た。その具体的な質問内容と回答について、以下の章で述べる。

なお、以下の各質問項目の集計結果については、小数点第二位を四捨五入した結果を用いている。

第1章 学業

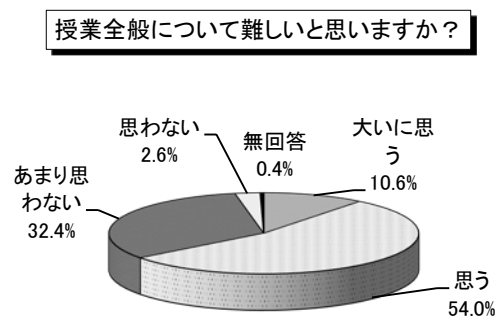
1-1 大学での勉強の重要性

「将来にとって、本学で勉強することはどの程度重要だと思いますか」とたずねたところ、「大いに重要である」が29.6% (159人)、「重要である」が63.7% (342人)、「あまり重要でない」が4.7% (25人)、「重要でない」が2.0% (11人)という結果であった。「大いに重要である」と「重要である」をあわせると93.3%と9割以上に達し、多くの学生が将来を考えて授業を履修し、勉強していることが分かる。



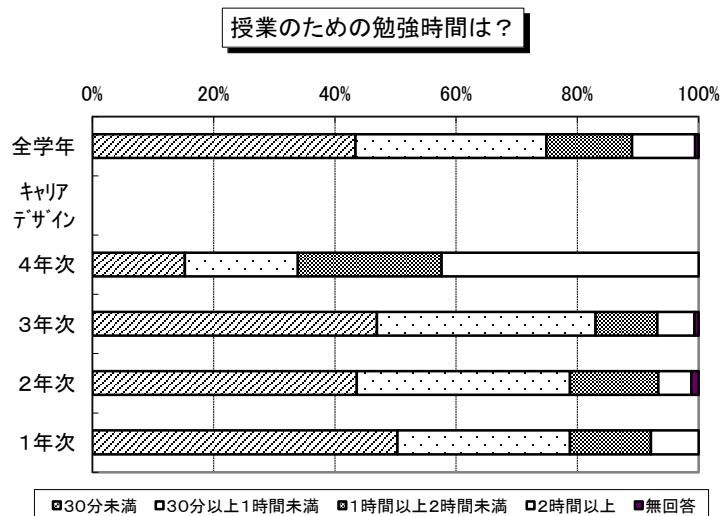
1-2 授業に対する理解

「本学の授業全般について、難しいと思いますか」とたずねたところ、「大いに思う」が10.6% (57人)、「思う」が54.0% (290人)、「あまり思わない」が32.4% (174人)、「思わない」が2.6% (14人)という結果であった。「大いに思う」と「思う」と回答した学生をあわせると64.6%と6割以上の学生が授業全般について難しいと回答しており、授業内容を十分に理解できていない学生が多くいる可能性がうかがえる。



1-3 勉強時間

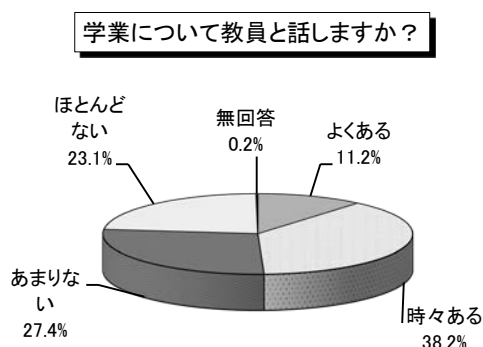
「週単位で平均すると一日どのくらい勉強していますか」とたずねたところ、「30分未満」が43.4% (233人)、「30分以上1時間未満」が31.5% (169人)、「1時間以上2時間未満」が14.2% (76人)、「2時間以上」が10.4% (56人)という結果であった(無回答3人)。「30分未満」と「30分以上1時間未満」をあわせると7割以上になり、勉強時間の少ない学生が多いことが示された。



一方、国家試験の受験が直前に迫っている4年生は「2時間以上」の割合が42.4% (59人中25人)と、最もその比率が高かった。

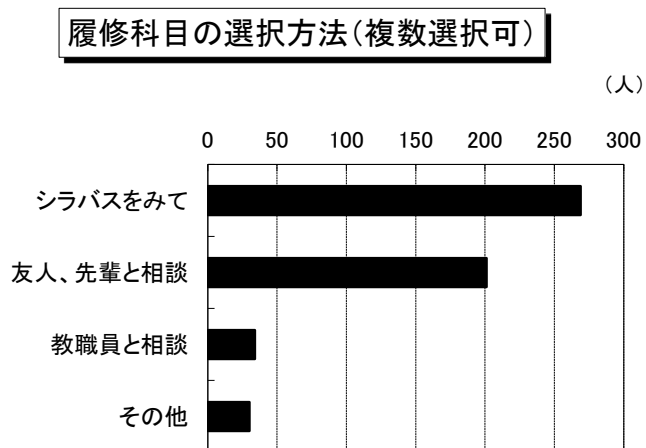
1-4 学業についての教員との会話

「学業について教員と話をすることがありますか（授業での質問を含む）」とたずねたところ、「よくある」が11.2%（60人）、「時々ある」が38.2%（205人）、「あまりない」が27.4%（147人）、「ほとんどない」が23.1%（124人）という結果であった。このように、教員との学業に関する会話は、49.4%の学生が「よくある」「時々ある」と回答した一方、50.5%の学生が「あまりない」「ほとんどない」と回答しており、二分される傾向が示された。



1-5 履修科目の選択方法

「履修する科目をどのようにして選びますか（複数回答可）」とたずねたところ、「シラバスをみて」が50.1%（269人）、「友人、先輩と相談」が37.4%（201人）、「教職員と相談」が6.3%（34人）、「その他」が5.6%（30人）という結果であった。「シラバスをみて」と「友人、先輩と相談」をあわせると87.5%と8割以上に達した。



FD委員会からのコメント

1. 学業について

大学での勉強の重要性については、93.3%の学生が「大いに重要である」または「重要である」と認識しています。これは、専門職養成を柱とした本学の教育カリキュラムが、各資格取得のために必要な科目を多数設けていることと関係があると思われます。授業の難しさを問う質問に対しては、64.6%の学生が「授業が難しい」と回答しています。その理由としては、単に授業の内容が高度であるというだけでなく、学生の生活設計にも問題があるように思われます。

現今の学生は学費の支払いが容易ではありません。おのずから、アルバイトをせざるを得ない状況にありますが、それに当てる時間帯と、授業の時間帯との調整がうまくいっていない可能性があります。夜中にも働くことがあり、その場合には、翌日の午前中は授業を入れない、長時間のアルバイトの後は、休養する時間を確保する等の配慮を十分しているでしょうか。授業科目の選択は、必要な科目だから、友人と同じ科目を取りたいからという理由で決めると、無理が生じます。疲れのために、居眠りや、欠席が重なると、当然授業についていけなくなり、内容が難しいと感じてしまうことにもなるでしょう。

年度当初、受講科目を決めるときに、シラバスの参照や友人との相談のほかに、自分のアルバイト等、生活の状況を十分考慮して、時間を配分していく必要があると思います。そのためにも、教員のオフィスアワーを利用して相談をしてほしいのです。いろいろな方法を提案してくれるでしょう。

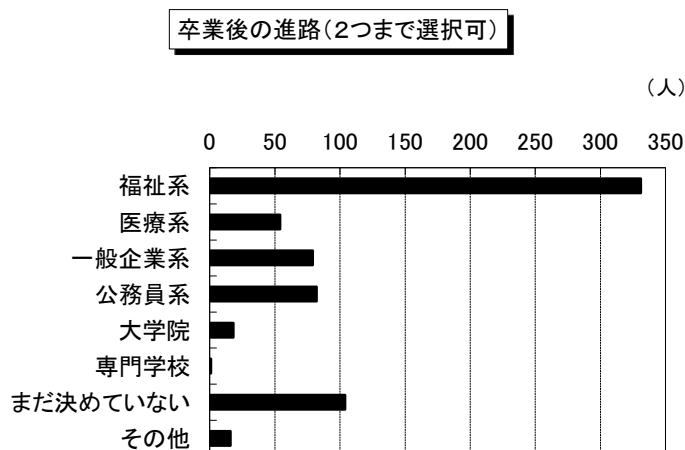
本学の図書館は、国家試験対策関連図書が充実し、館内には個別スペースも確保されています。生活、学業にゆとりがあれば、図書館の活用も自然と増えてくると思います。大学4年間を充実したものにするために、学生生活を総合的に設計する努力を惜しまないでください。

教員も、授業の改善について、日々工夫しています。学生の要望に積極的に応えようとしていますから、積極的に意見を寄せてください。

第2章 進路・キャリア支援

2-1 卒業後の進路

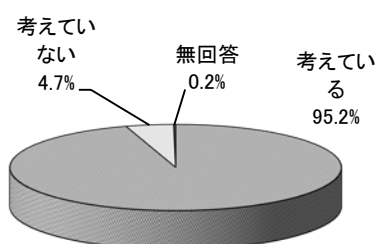
「卒業後の進路をどのように考えていますか（主なもの2つ）」とたずねたところ、「福祉系」が61.6%（331人）と半数以上を占め、つぎに「公務員系」が15.3%（82人）、さらに「一般企業系」が14.7%（79人）、「医療系」が10.1%（54人）、「大学院」が3.4%（18人）、「専門学校」が0.2%（1人）、「まだ決めていない」が19.4%（104人）であった。「その他」の内容は、保育系、進学、スポーツジム、小説家などの記載がみられた。



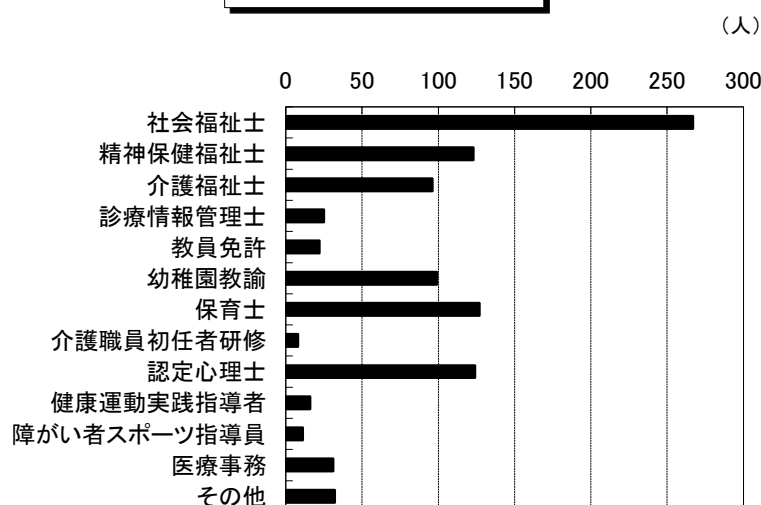
2-2 取得したい資格

「就職などにつながる資格を取得したいと考えていますか」とたずねたところ、「考えている」が95.2%（511人）、「考えていない」が4.7%（25人）であった。「考えている」の具体的な内容（複数回答可）としては、「社会福祉士」が52.3%（267人）、「精神保健福祉士」が24.1%（123人）、「介護福祉士」が18.8%（96人）、「診療情報管理士」が4.9%（25人）、「教員免許」が4.3%（22人）、「幼稚園教諭」が19.4%（99人）、「保育士」が24.9%（127人）、「介護職員初任者研修」が1.6%（8人）、「認定心理士」が24.3%（124人）、「健康運動実践指導者」が3.1%（16人）、「障がい者スポーツ指導員」が2.2%（11人）、「医療事務」が6.1%（31人）という結果であった。「その他」の内容は、ITパスポート、社会福祉主事、児童指導員、福祉住環境コーディネーター、食生活アドバイザー、レクリエーションクリエイターなどの記載がみられた。

資格の取得を考えていますか？



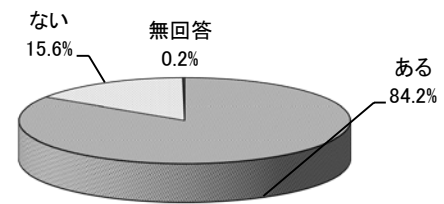
取得したい資格(複数選択可)



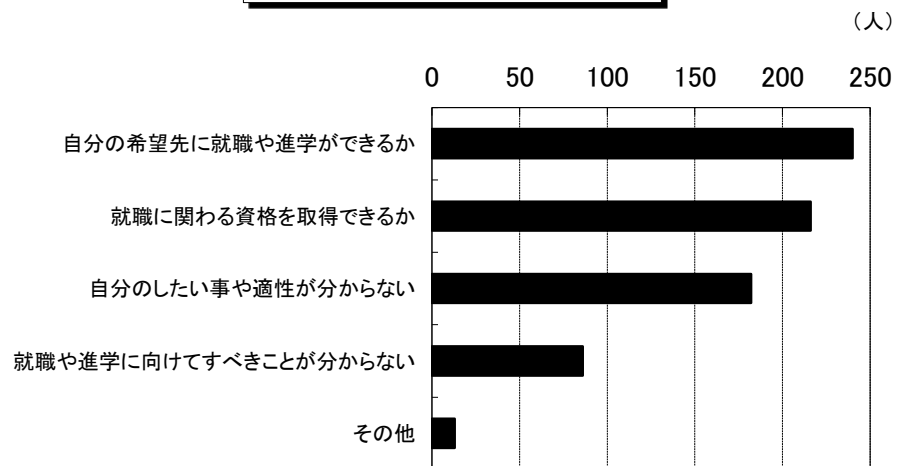
2-3 将来設計（進路）への不安

「将来設計（進路）について不安がありますか」とたずねたところ、「ある」が84.2%（452人）、「ない」が15.6%（84人）、無回答は1人であった。「ある」の具体的な内容（複数回答可）としては、「自分の希望先に就職や進学ができるか」が53.1%（240人）、「就職に関わる資格を取得できるか」が47.8%（216人）、「自分のしたい事や適性が分からない」が40.3%（182人）、「就職や進学に向けてすべきことが分からない」が19.0%（86人）という結果であった。「その他」の内容は、資格取得が中断されているため、実際どんな仕事があるかわからない、卒業できるか心配、人間関係等があげられた。

将来設計に不安がありますか？



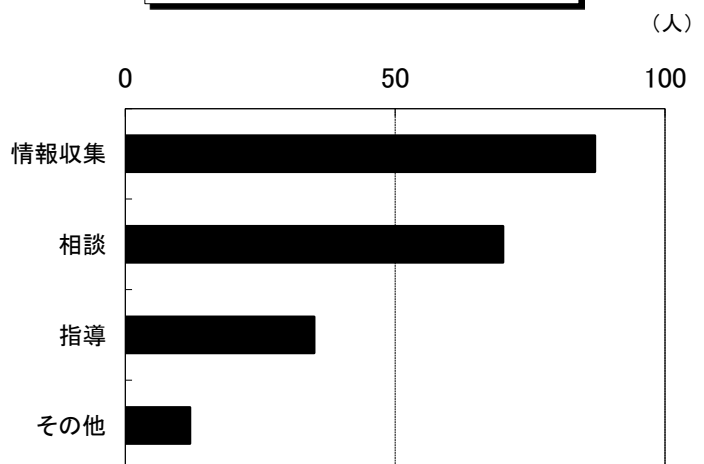
将来設計についての不安（複数選択可）



2-4 キャリア支援課の活用

「キャリア支援課を利用したことがある方は、利用した内容を教えてください（複数回答可）」とたずねたところ、「情報収集」が16.2%（87人）、「相談」が13.0%（70人）、「指導」が6.5%（35人）、「その他」は2.2%（12人）という結果であった。「その他」の内容は、アルバイト、学友会について、面接練習等があげられた。

キャリア支援課の利用内容（複数選択可）



2-5 キャリア支援課への要望や質問

15名の記述があった。要望としては、「気軽に相談できる感じにして欲しい」「公務員についての情報をもっと集めて欲しい」「大学院への進学を希望しているので大学院の相談や情報を提供してくれるようになると嬉しいです」などがあった。質問としては、「どんな仕事があるか?」「就職で必要なこと」「資格や福祉系のバイトについて」などがあった。

キャリア支援委員会からのコメント

2-1 卒業後の進路

本学は、開学以来、高い就職内定率を確保しています。これは、本学が社会に必要とされる人材を育成している証だといえるでしょう。福祉の高等教育機関として実績を積み重ねる中で、福祉・医療分野への就職を希望する学生は、60%以上を占めています。近年は、若干「一般企業・公務員系」に進む学生が増えている傾向にありますが、一般企業に進んだ学生の多くは、大学で学んだ「福祉」の心や精神、コミュニケーション力などを活かしての就職となっています。

在校生の皆さんは、それぞれの学年に応じて、自分自身の進路について真剣に考えていただき、将来のキャリア・プラン、ライフ・プランを描いてください。そしてその到達点に向けて、何が必要なのか、何をすべきなのかをしっかりと把握してください。そこから自分自身のキャリア形成がスタートします。

2-2 取得したい資格

本学は、学生の資格取得を推奨しています。また、95.2%の学生は、「就職などにつながる資格を取得したいと考えている」と回答しています。

資格取得という目標を立て、実行していくことで社会に役立つ実践能力を身につけるとともに、自分自身の大きな自信につながります。

2-3 将来設計（進路）への不安

将来設計に関しては、84.2%の学生は就職や進学問題、自分の適正が不明などの不安を抱えています。皆さんが抱える「不安」については、情報不足や知識不足を克服することで多くは解消することができます。

キャリア支援の授業を受講して、情報や知識を補完してください。また、キャリア支援課では、皆さんの不安に対し、情報収集の方法などの助言やさまざまな相談に対応しています。

2-4 キャリア支援課の活用

キャリア支援課では、学生の皆さんの就職活動がスムーズに進むように、就職活動本番に向けての準備のお手伝いから、就職活動が終了するまで、求人情報等の提供やガイダンスの開催、就職相談などの就職活動全般にわたり支援しています。今後も皆さんの期待に応えられるように、支援の在り方について、さらに向上していけるよう努めていきます。キャリア支援課は、皆さんの就職活動の応援団であり、アドバイザーであり、コンサルタントであると考えています。皆さんの希望を真摯に受け止め、実現に向けての手助けができるよう全力でサポートしていきます。

2-5 キャリア支援課への要望

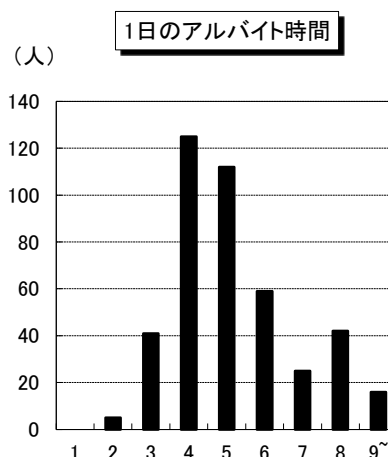
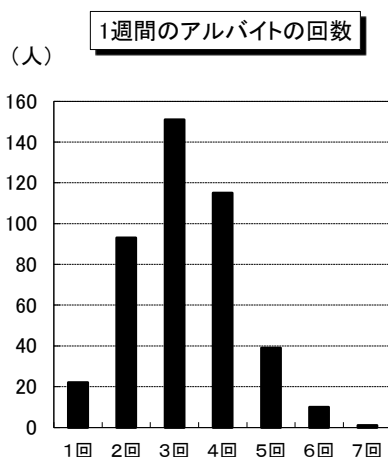
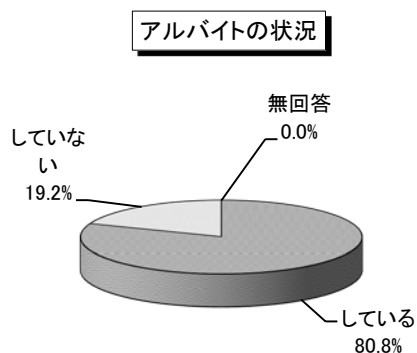
キャリア支援課へ多くの要望をいただき、その責任の重さを実感しております。学生の皆さんの期待に答えられるように支援のあり方や手法について検討し、レベルの向上を目指すとともに相談しやすい体制を構築していきます。

キャリア支援課は平日8時30分から17時15分まで開いています。皆さんの要望に配慮しますので、何でも遠慮なくご相談ください。

第3章 学生生活

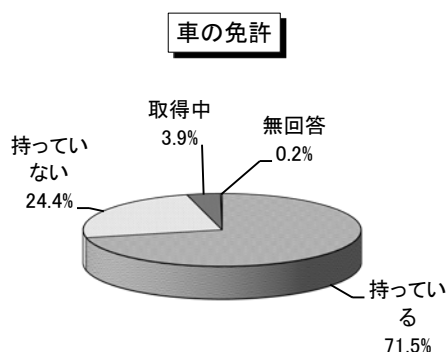
3-1 アルバイトの状況

「アルバイトをしていますか」とたずねたところ、「している」が80.8%（434人）、「していない」が19.2%（103人）であった。1週間のアルバイトの回数は3回が多く、1日に従事する時間は平均4～5時間が多かった。また、11人の学生（434人中2.5%）に週6回以上との回答が、58人の学生（434人中13.4%）に1日平均8時間以上との回答がみられた。一方、「していない」と回答した学生のうち、「アルバイトを希望」は35.0%（36人）、「アルバイトを希望していない」は24.3%（25人）であった。近年、保護者の経済的問題が増加傾向にあり、学生のアルバイトの回数や一日の時間も微増傾向にある。学年による差もあることから、さらに分析を行い、学業とアルバイトとの両立に関する課題を明らかにし、必要な指導や支援を行うことを検討したい。



3-2 車の免許

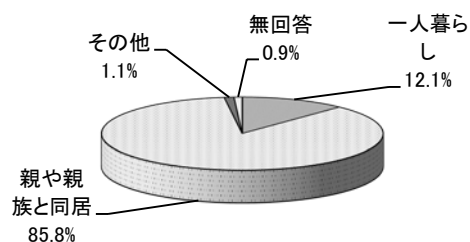
「車の免許を持っていますか」とたずねたところ、「持っている」が71.5%（384人）、「持っていない」が24.4%（131人）、「取得中（自動車学校に通学中など）」が3.9%（21人）であり、7割強の学生が車の免許を取得していることが示された。学年によって差があると思われるが、通学や実習、就職等を考えて、卒業までに多くの学生が取得を目指している。



3-3 同居家族の有無

「現在、授業がある時期は一人暮らしをしていますか」とたずねたところ、「一人暮らし」12.1% (65人)、「親や親族と同居」85.8% (461人)で、8割以上の学生が親や親族と同居をしていることが示された。「その他」の内容は、下宿、同棲などがあげられた。

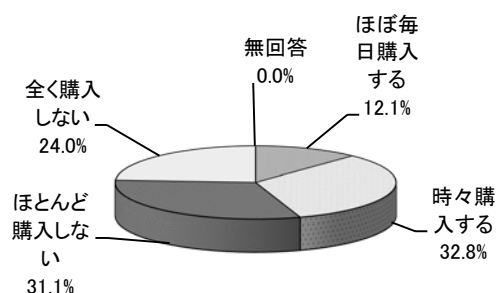
一人暮らしについて



3-4 学生食堂

「学生食堂でどのくらいの頻度で食券を購入しますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日購入する」が12.1% (65人)、「時々購入する」が32.8% (176人)、「ほとんど購入しない」が31.1% (167人)、「全く購入しない」が24.0% (129人)という結果であった。

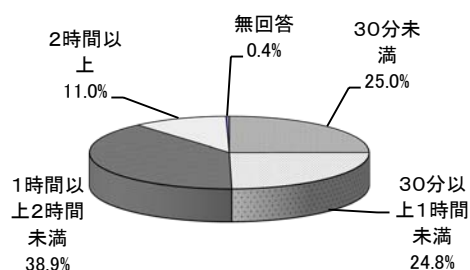
学生食堂の食券購入について



3-5 通学時間

「普段の通学時間はおよそどのくらいですか」とたずねたところ、「30分未満」が25.0% (134人)、「30分以上1時間未満」が24.8% (133人)、「1時間以上2時間未満」が38.9% (209人)、「2時間以上」が11.0% (59人)という結果であった。通学時間が1時間以上の学生が約5割をしめている。

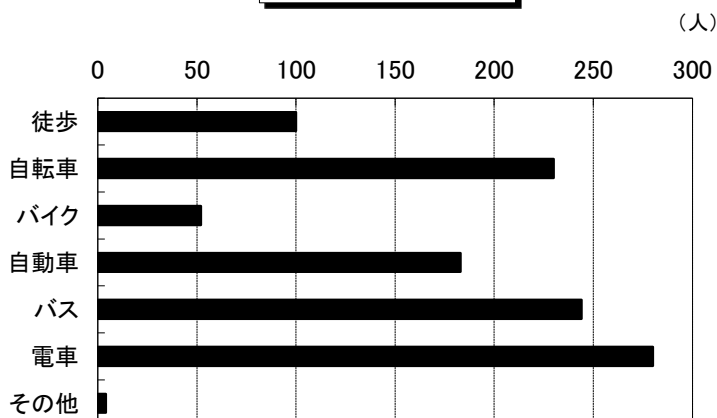
通学時間



3-6 通学手段

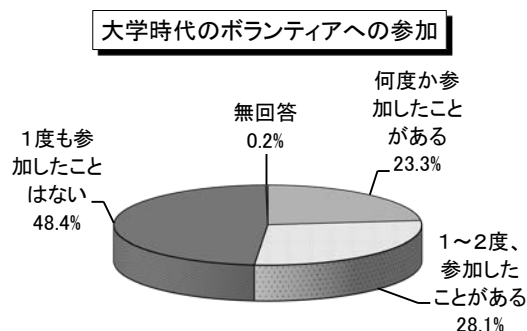
「普段、どのような通学手段をとっていますか。使っている全ての手段を教えてください」とたずねたところ、「徒歩」が18.6% (100人)、「自転車」が42.8% (230人)、「バイク」が9.7% (52人)、「自動車」が34.1% (183人)、「バス」が45.4% (244人)、「電車」が52.1% (280人)であり、電車、バス、自転車を手段としている学生が多いと共に、他大学に比べて、自動車が約4割と高いことが示された。

通学手段(複数選択可)



3-7 大学でのボランティア活動への参加

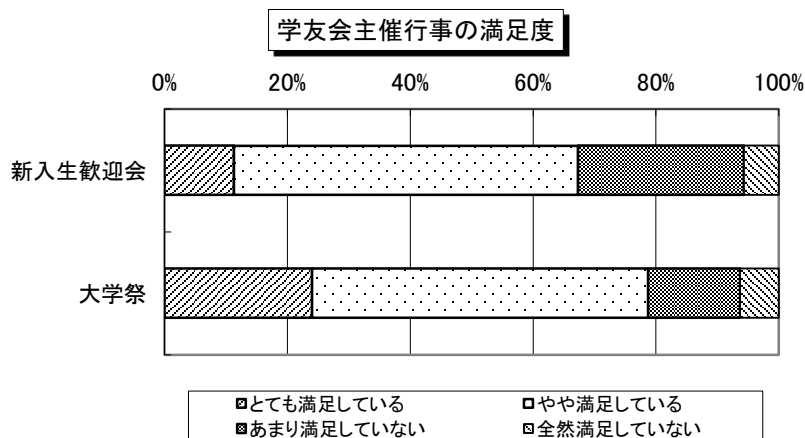
「本学に入学してから現在までの間で、ボランティア活動に参加したことがありますか」とたずねたところ、「何度か参加したことがある」23.3% (125人)、「1～2度、参加したことがある」28.1% (151人)、「1度も参加したことはない」48.4% (260人) という結果であった。ボランティア活動の参加経験がある学生は5割強であった。



3-8 学友会主催行事の満足度

平成29年度の11月までに学友会が実施した2種類の行事への参加割合についてたずねたところ、参加した学生の割合は、「新入生歓迎会」47.5%、「大学祭」55.7%であった。

さらに、参加者に「今年、学友会主催の行事に参加した方に伺います。満足しましたか」とたずねた。「新入生歓迎会」における「とても満足している」「やや満足している」は65.5% (255人中167人)、「大学祭」における「とても満足している」「やや満足している」は75.6% (299人中226人) であった。

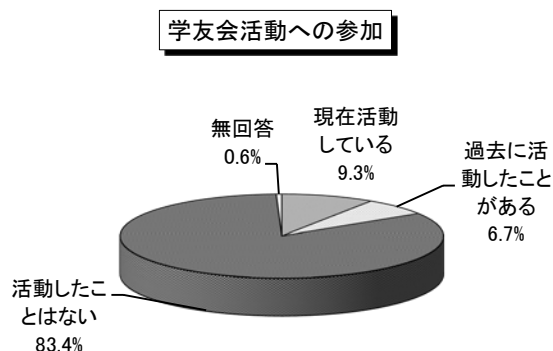


3-9 3-8 にあげた行事に対する要望や意見

79名の記述がみられた。新入生歓迎会については「サークルを紹介する時間がないので時間を増やしてほしい」などの意見がみられた。大学祭については「もう少し有名なアーティストなどを学祭に呼んでもらえると嬉しいです」「大学祭実行委員の人数が少なく、実行委員の負担が大きい」「実行委員の要領が悪い」「野外ステージがほしい」「もう少しやるお店の種類があるといい」などの意見がみられた。他の意見として、「体育祭とか球技大会」「行事に対し、学校側ももう少し腰をいれてほしい」「サークルとかに入ってなくても楽しめる行事がほしい」「他学科と交流する行事を増やしてほしい。つまらないから。同じ学科の人との行事も増やしてほしい」などがみられた。

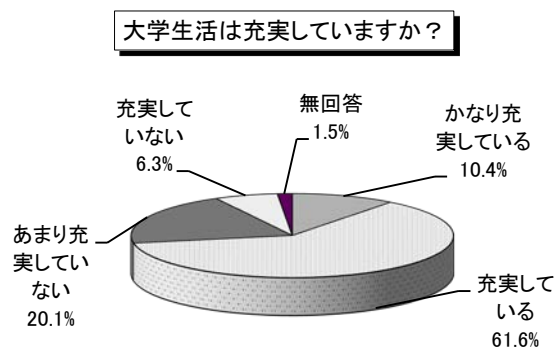
3-10 学友会活動への参加

「代議委員会、体育会・文化会、大学祭実行委員会、卒業記念委員会のいずれかで活動したことはありますか」とたずねたところ、「現在、活動している」が9.3%（50人）で、「過去に活動したことがある」が6.7%（36人）、「活動したことはない」が83.4%（448人）という結果で、学友会活動に参加経験のある学生は1割強であることが示された。



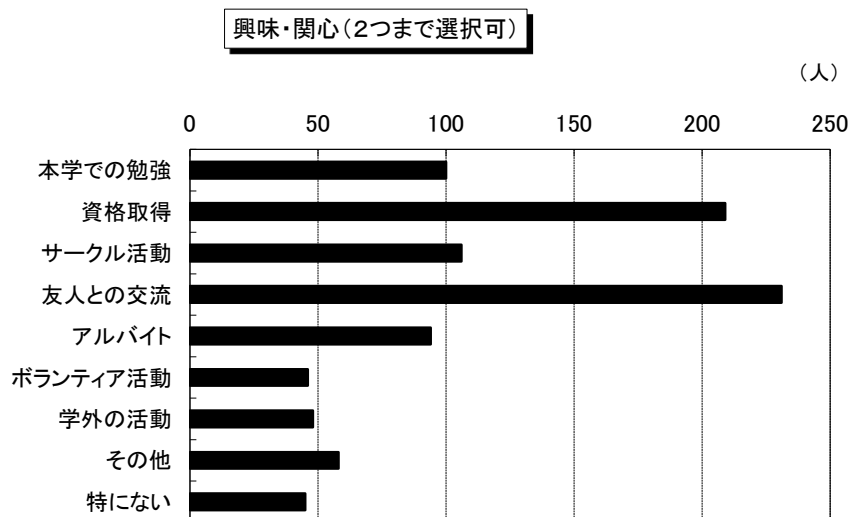
3-11 大学生活の充実度

「大学生活は充実していますか（楽しいですか）」とたずねたところ、「かなり充実している」が10.4%（56人）、「充実している」が61.6%（331人）、「あまり充実していない」が20.1%（108人）、「充実していない」が6.3%（34人）であり、7割強の学生に大学生活は充実しているとの回答が示された。



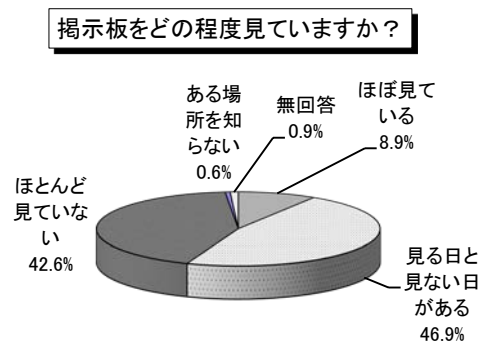
3-12 興味・関心

「現在、興味や関心を持って行っていることは何ですか（主なもの2つ）」とたずねたところ、8項目の中で、最も高かったのは「友人との交流」43.0%（231人）、ついで「資格取得」38.9%（209人）であり、この2点への興味・関心が他の項目に比べて高いことが示された。3番目に興味・関心が高いのは「サークル活動」19.7%（106人）であった。

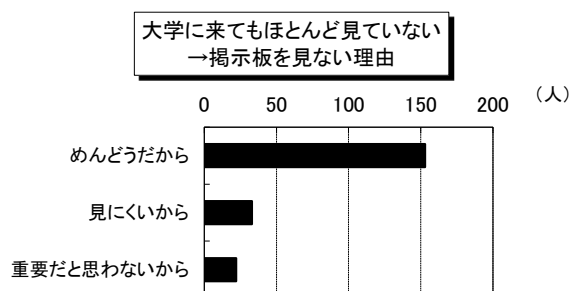
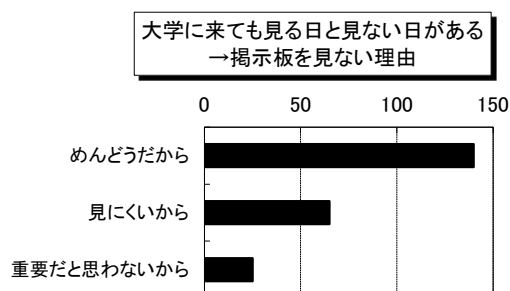


3-13 掲示板的の使用

「掲示板（教務、学科、資格取得支援など）をどの程度見えていますか」とたずねたところ、「ほぼ大学に来るたびに見ている」が8.9%（48人）、「大学に来ても見る日と見ない日がある」が46.9%（252人）、「大学に来てもほとんど見ていない」が42.6%（229人）、「掲示板のある場所を知らない（だから見ていない）」が0.6%（3人）という結果であった。

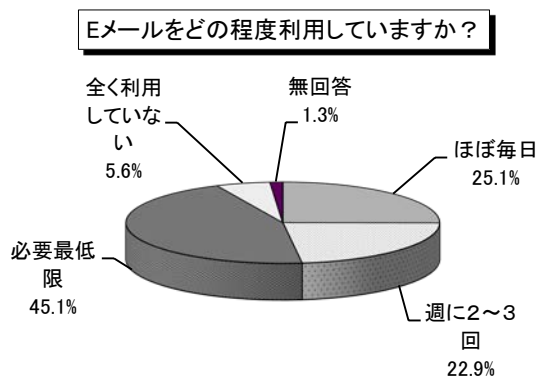


さらに「大学に来ても見る日と見ない日がある」「大学に来てもほとんど見ていない」と回答した方に理由をたずねた。「大学に来ても見る日と見ない日がある」と回答した人は「めんどうだから」が55.6%（140人）、「見にくいから」が25.8%（65人）、「重要だと思わないから」が9.9%（25人）であった。「大学に来てもほとんど見ていない」と回答した人は「めんどうだから」が66.8%（153人）、「見にくいから」が14.4%（33人）、「重要だと思わないから」が9.6%（22人）であった。



3-14 Eメールの利用

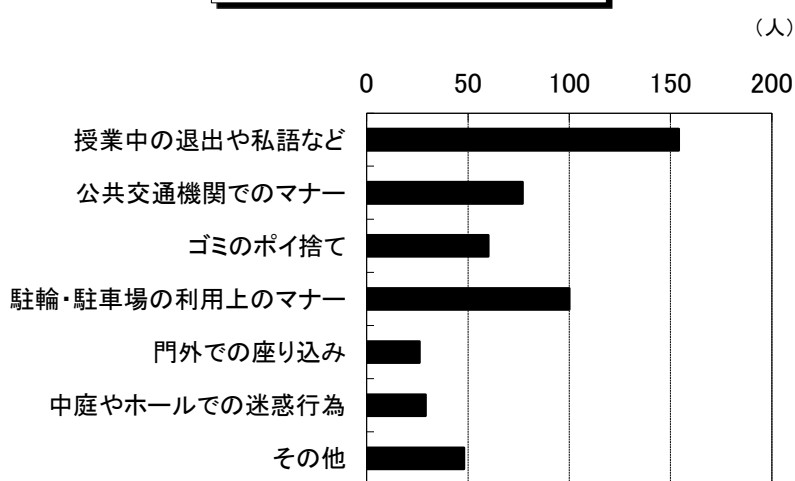
「大学のEメールをどのくらい利用（メールのチェックや送受信）していますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日」が25.1%（135人）、「週に2～3回」が22.9%（123人）、「必要最低限（授業などで）」が45.1%（242人）、「全く利用していない」が5.6%（30人）という結果であった。



3-15 学生マナーについて

「本学の学生が改善したほうがよいと思うマナーはありますか（主なもの2つ選択）」とたずねたところ、「ある」が60.9%（327人）、「ない」が38.2%（205人）という結果であった。改善すべき点については、「授業中の退出や私語など」が47.1%（154人）、「公共交通機関でのマナー」が23.5%（77人）、「ゴミのポイ捨て」が18.3%（60人）、「駐輪・駐車場の利用上のマナー」が30.6%（100人）、「門外での座り込み」が8.0%（26人）、「中庭やホールでの迷惑行為」が8.9%（29人）「その他」が14.7%（48人）という結果であった。「その他」の内容には、喫煙者のマナー、行事後の後片付け、学食など共同で利用する場所のマナー、物を盗る学生がいる等の記載内容があった。

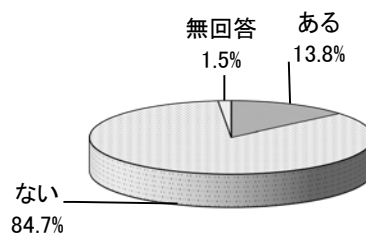
学生マナーについて(2つまで選択可)



3-16 学内外でのトラブル

「本学に入学してから現在までの間に、学内外でトラブルにあったことがありますか」とたずねたところ、「ある」が13.8%（74人）、「ない」が84.7%（455人）であった。具体的なトラブルの内容（複数回答可）は、高い順に「交通事故」が44.6%（33人）、「ハラスメント（嫌がらせ）」が21.6%（16人）、「盗難」が17.6%（13人）、「ストーカー行為・脅迫」が13.5%（10人）、「宗教勧誘・マルチ商法」が12.2%（9人）、「悪徳セールス」は1.4%（1人）であった。「その他」への記載は財布をなくしたとの記載がみられた。

トラブルについて

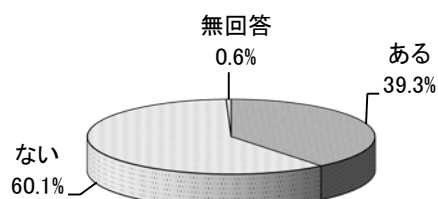


3-17 学生生活への悩み

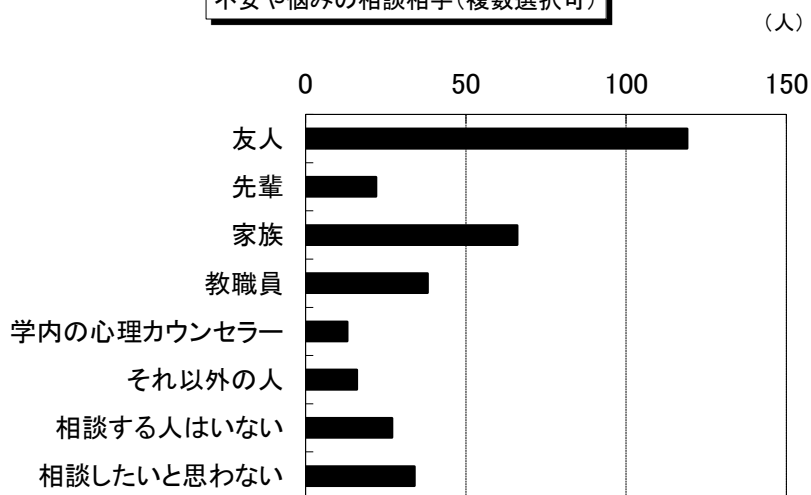
「現在、学生生活に関して悩みがありますか」とたずねたところ、「ある」が39.3% (211人)、「ない」が60.1% (323人)であった。「ある」の回答者に、「悩みを誰かに相談していますか」とたずねたところ、「友人」56.4% (119人)と「家族」31.3% (66人)が多く、ほかに「先輩」10.4% (22人)、教職員18.0% (38人)、「学内の心理カウンセラー」6.2% (13人)、「それ以外の人」7.6% (16人)であった。

その一方、「相談する人はいない」12.8% (27人)、「相談したいと思わない」16.1% (34人)との回答もみられた。また、「ある」の回答者に「内容」をたずねたところ、高い順に「人間関係」33.2% (70人)、「学業面の問題」22.7% (48人)、「健康面の問題」9.5% (20人)、「経済的事情」8.5% (18人)、「その他」5.7% (12人)、「他の分野に関心がある」3.8% (8人)となった。

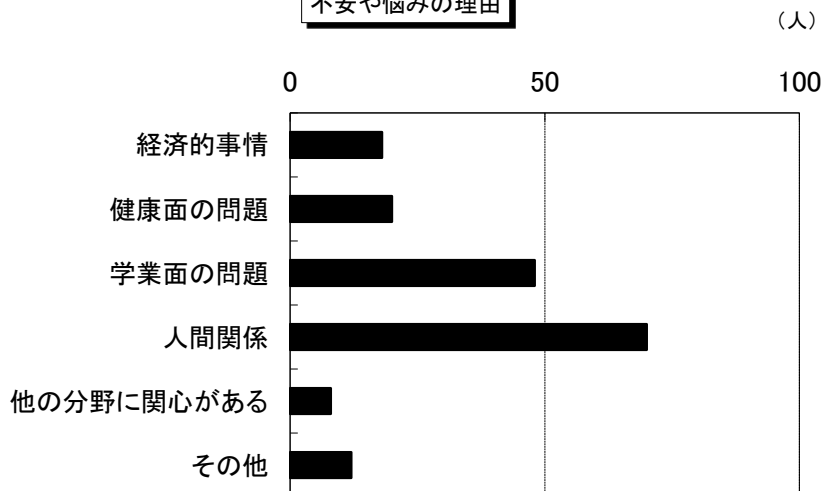
学生生活への悩み



不安や悩みの相談相手(複数選択可)

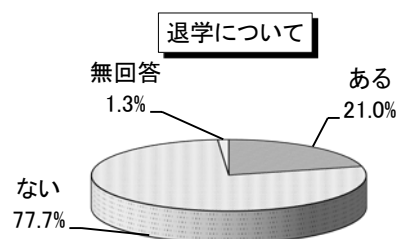


不安や悩みの理由



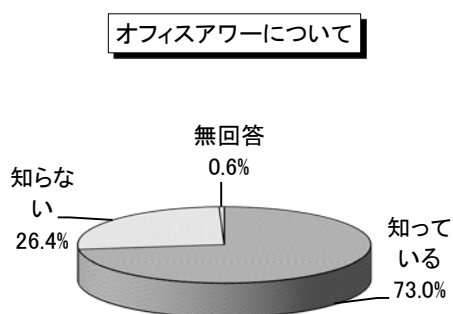
3-18 退学について

「本学を退学することについて考えたことがありますか」とたずねたところ、「ある」21.0% (113人)、「ない」77.7% (417人)であった。退学を考えた理由は、高い順に「人間関係」が35.4% (40人)、「経済的事情」25.7% (29人)、「学業面の問題」23.9% (27人)、「他の分野に関心がある」が16.8% (19人)、「健康面の問題」9.7% (11人)であった。「その他」の内容には、つまらないから、大学が信用できない、就職の問題、意味があるのか分からない等の記載がみられた。



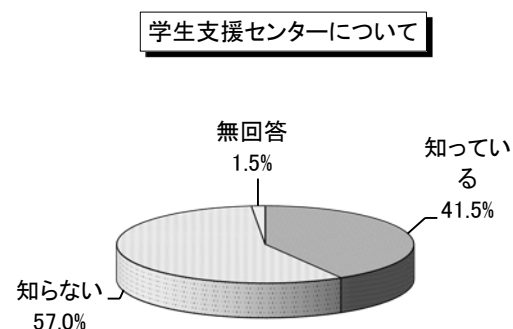
3-19 オフィスアワーについて

「オフィスアワーを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」73.0% (392人)、「知らない」26.4% (142人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかについてたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は25.3% (99人)であった。



3-20 学生支援総合センターについて

「学生支援総合センターを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が41.5% (223人)、「知らない」が57.0% (306人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかをたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は22.0% (49人)であった。



学生支援総合センターからのコメント

3-16 学内外でのトラブル

「学内外でのトラブルにあったことがある」と答えた学生は、昨年度より微減して13.8%でした。そのうち最も多かったものが「交通事故」です。焼津は信号無視などをする車がかなり目立ちます。十分注意してください。授業など余裕をもって間に合うように、早めに家をでるようお願いします。また、「ハラスメント（嫌がらせ）」は、一人で抱え込まないで学生支援総合センターなどに遠慮なく相談に来てください。

3-17 学生生活への不安や悩み

悩みをもたない人はほとんどいないでしょう。悩みはあるけれど、それを誰かに話すなどして、上手に解消しているのだと考えられます。それに対して、悩みはあるのに「相談する人がいない」、「相談したいと思わない」という人が決して少なくないことが気になります。悩みを一人で抱え込まず、学生支援総合センターを利用してください。話をすることで、かなりスッキリするはずです。

3-18 退学について

21.0%、つまり、5人に1人以上の学生が「退学を考えたことがある」と答えています。その一番の理由は、「人間関係」でした。以前ほど直接他者と関わることが少なくなりつつある社会になり、他者との距離をどのようにとったらよいのか悩んでいるのだと思います。また、SNSなどによる書き込みによって人間関係がぎくしゃくしてしまう、という相談も増えています。人間関係で悩みが生じた時には、是非、学生支援総合センターへいらしてください。

3-19 オフィスアワーについて

オフィスアワーを知っている学生の割合は73.0%となり、前年の72.8%から微増しました。引き続きこの割合を上げるように周知を徹底したいと思います。また、利用したことがある学生は25.3%で、こちらも昨年19.0%に比べて増加しています。授業以外でも教員や学生と気軽に触れ合うことのできる機会ですので、是非、活用してください。

3-20 学生支援総合センターについて

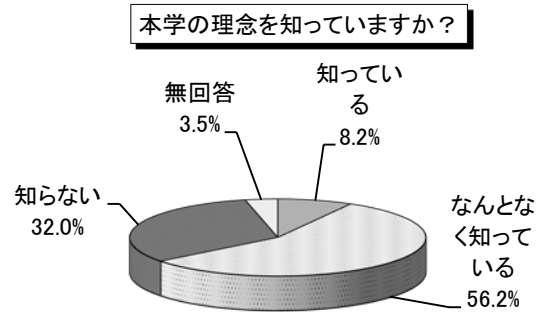
「知っている」学生が41.5%で、「知らない」学生が57.0%ということは、知らない学生の方が多ということになります。入学時のオリエンテーションに学生支援総合センターのメールアドレスの登録をお願いしていますから、この数字の低さは意外ですが、もしかしたら学年があがるにつれて存在を忘れてしまっているのかもしれない。

第4章 大学

4-1 本学の理念（建学の精神）の認知

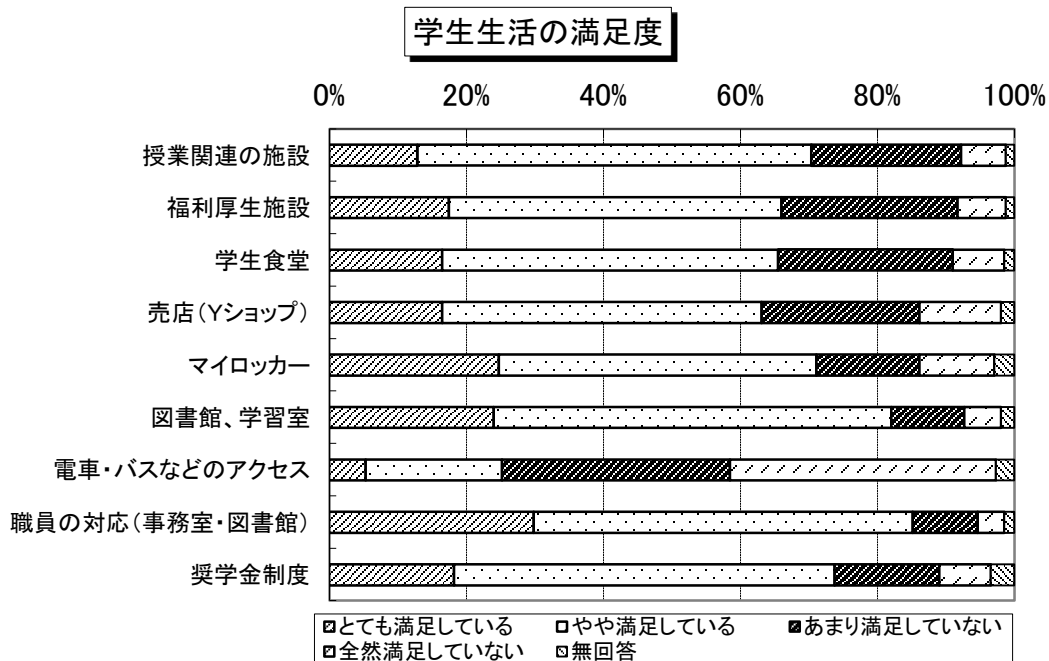
「本学の理念（建学の精神）を知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が8.2%（44人）、「なんとなく知っている」が56.2%（302人）、「知らない」が32.0%（172人）であった。

大学ではその方法として、学内の掲示、学長との新入生懇談会、「キャンパスライフの手引き」等を通じて、周知を行っている。しかし、3割以上が「知らない」と回答しており、さらに



4-2 大学生生活の満足度

「次にあげた項目について、どの程度満足していますか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。



「教室、体育館などの授業関連の施設」については、「とても満足している」10.4%（56人）、「やや満足している」58.3%（313人）、「あまり満足していない」23.3%（125人）、「全然満足していない」7.3%（39人）という結果であった。「トイレ、学生ホール、部室などの福利厚生施設」については、「とても満足している」13.0%（70人）、「やや満足している」52.9%（284人）、「あまり満足していない」25.0%（134人）、「全然満足していない」8.4%（45人）という結果であった。「学生食堂」については、「とても満足している」13.8%（74

人)、「やや満足している」48.4% (260人)、「あまり満足していない」27.6% (148人)、「全然満足していない」8.9% (48人) という結果であった。「売店 (Yショップ)」については、「とても満足している」14.9% (80人)、「やや満足している」45.4% (244人)、「あまり満足していない」28.7% (154人)、「全然満足していない」9.9% (53人) という結果であった。「マイロッカー」については、「とても満足している」22.9% (123人)、「やや満足している」48.6% (261人)、「あまり満足していない」18.4% (99人)、「全然満足していない」8.2% (44人) という結果であった。「図書館、学習室」については、「とても満足している」26.6% (143人)、「やや満足している」52.5% (282人)、「あまり満足していない」13.8% (74人)、「全然満足していない」5.8% (31人) という結果であった。「本学への電車・バスなどのアクセス」については、「とても満足している」5.8% (31人)、「やや満足している」18.4% (99人)、「あまり満足していない」34.6% (186人)、「全然満足していない」39.5% (212人) という結果であった。「事務室や図書館などにいる職員の対応」については、「とても満足している」35.6% (191人)、「やや満足している」49.3% (265人)、「あまり満足していない」10.4% (56人)、「全然満足していない」3.5% (19人) という結果であった。「奨学金制度」については、「とても満足している」18.8% (101人)、「やや満足している」51.8% (278人)、「あまり満足していない」18.4% (99人)、「全然満足していない」8.6% (46人) という結果であった。

以上のように、「大学生活の満足度」の全項目について比較すると、「大学への電車・バスなどのアクセス」についての満足度は際立って低い。

4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見

施設や制度、対応への要望や意見については、110名の記述がみられた。

内容の大半を占めていたのが、「バスの増便」「スクールバスの運行」「電車とバスとの連携の悪さ」といった大学と最寄り駅間のバスに関する要望であった。

バス以外に関する内容としては、①「1人でも居やすいような個室や設備が欲しい」「喫煙所の設置 (雨の日対応)」「土・日に学習スペースとして使える教室」「ATMの設置」などの施設面への要望、②「Wi-Fi もっといいものにしてほしい」「全部屋にWi-Fi 欲しい」「食堂が少しせまい」「体育館がせまい」「大講義室のイスが座りにくい」「駐車場の整備」「トイレの個室を増やしてほしい」などといった現状に対する要望や意見、③学食メニューや売店商品の充実化への要望、④「奨学金の手続きの事務側の問題」「奨学金をもっと充実させてほしい」などの奨学金に関する意見が見られた。

学生厚生委員会からのコメント

学生厚生委員会では、皆さんが充実した大学生生活を送れるよう、学友会（代議委員会・体育会文化会・大学祭行事委員会・卒業行事委員会等）やオフィスアワー等の支援を行っています。学生生活の現状を理解し、課題について一緒に取り組みたいと思います。

（１）アルバイトの状況 「アルバイトをしている」との回答は80.8%（434人）であり、週3回、1日平均4～5時間が多い状況でした。学業とアルバイトの両立は学生生活を送る上でとても重要であり、長時間や深夜のアルバイト等、心身の健康を崩すことや学業に支障がでないよう十分に気をつけることが大切です。また、法定労働時間（1日8時間）を超えた勤務、シフトの強制、サービス残業等を強要するようなブラックバイトから被害を受けないためにも、その危険性を感じた時には直ぐに学生教務課へ相談するようにしてください。

（２）通学手段 通学手段についての質問では、「自動車」34.1%（183人）、「バイク」9.7%（52人）で通学していると回答しています。本学では、その立地条件から車やバイクでの通学を許可しておりますが、最近、通学時における事故が増えてきております。特に朝は、近隣の小学校へ登校する小学生が多くおります。運転するときには時間にゆとりをもって十分に安全運転を心がけてください。また、未登録の「自動車」で通学している学生が見受けられますが、万が一、事故を起こしてしまった際の授業への配慮や保険の適用等にも関わりますので、必ず学生教務課で登録申請をおこなうようにください。

（３）学友会活動への参加 新入生歓迎会や大学祭等、年間を通してさまざまな行事を学友会が中心となり開催しております。学友会は本学に籍があるすべての学生が正会員であり、充実した学生生活を送るためにも積極的な参加が望まれます。学友会活動への参加では83.4%（448人）が「活動したことはない」と回答している一方で、行事に対するさまざまな「要望や意見」があげられています。是非、学友会活動へ積極的、主体的に参加し、その中から自分たちの要望や意見が反映されるような大学生生活にさせていただくことを願います。学生厚生委員会は、これからもそのような活動をサポートしていきたいと思えます。

（４）学生マナーについて 「駐輪・駐車場の利用上のマナー」について、30.6%（100人）が改善した方がよいと回答しております。体育館裏の駐輪場において、駐輪スペースから横にはみ出してとめている自転車が見受けられます。通行人の妨げになっていますので、決められたスペースへとめるようにしてください。また、自動車通学をしている学生が近隣の私有地や路上に駐車しており、大学へ苦情の連絡が入ることがあります。警察への通報や私有地への無断駐車による罰金を請求されることもありますので、そのようなことは絶対におこなわないようにしてください。

（５）施設や制度、対応等大学への要望や意見 今年度、「電子レンジ（学食）」「洗濯機（部室）」を置いてほしいという学生からの要望を受け設置することができました。さらに、「学生生活調査」の実施や、学友会の代表と学食・コンビニエンスストア業者との「学食・コンビニ改善会議」の開催を通して、学生のニーズ把握と改善に努めています。今後は、学生からの学内環境の改善要望に対して、さらに迅速な対応ができる体制を整えるため「学修環境の改善等に関する要望書」を検討しているところでもあります。

総務課からのコメント

(1) 公共交通機関のアクセスについて

最寄り駅からのアクセス向上については、平成 28 年秋より、大学発焼津駅行きのバス発車時刻を 5 時限終了に合わせて発車時刻を遅らせてもらえるようになりました。今後もバス運行会社であるしずてつジャストラインには増便等を要請していく考えです。

そのようななか、焼津大島線の日曜日・祝日の運行が、平成 29 年 3 月 26 日より、焼津駅から焼津市立病院までの運行区間となりました。しずてつジャストラインへ要請し、平成 29 年 10 月 1 日より、ダイヤが改定され、焼津駅から大学まで運行されることとなりました。

スクールバスの運行については、以前より何度も検討してきたところではありますが、しずてつジャストラインバス利用者の減少による運行数の大幅な削減が予測され、地域社会に与える影響が大きいと思われることから困難との結果になっています。

なお、祝日はしずてつジャストラインの運行本数が少なくなることから、平成 27 年度から西焼津駅と大学間にスクールバスを 3 便走らせました。現在は大学の通常授業日には平日と同じ本数運行するようになったため、スクールバスは走らせていません。

(2) 学内施設の改善・充実について

施設へのさまざまな要望のなかから、平成 29 年度はバリアフリー化と空調設備改修を優先し、前者については、自動ドア化やスロープの勾配緩和、手摺設置を行いました。平成 30 年度につきましても、進める予定です。「食堂がせまい」という意見に対しては、現時点で拡張の予定はありませんが、テーブルと椅子の追加を考えています。

また、防犯体制の強化として、前年度に防犯カメラを設置、平成 29 年度より警備員による日中の巡回を行っています。

学生駐車場の整備については、借地ということもあり舗装は難しいです。定期的に除草を行い利用しやすいように努めます。また、スペースに限りがあるなかで、大学関係者以外や無許可の駐車への対策が課題となっています。

大規模な工事や費用が必要な改善については、長期計画を策定し、一つずつ改善していきたいと思います。

(3) 学食・売店の向上について

売店については、年度途中で業者を変更しました。業者からは取扱商品が増えると聞いています。衛生管理の体制が改善したら、軽食の販売を行う予定です。